

＜2014年農林水産研究成果10大トピックス TOPIC2＞

農林水産技術会議事務局

＜タイトル＞

ニホンウナギ^{しぎよ}仔魚飼育 大型水槽で成功
－シラスウナギ量産技術の開発に期待－

＜当該研究成果のポイント＞

(独)水産総合研究センターは、ニホンウナギの仔魚(レプトセファルス幼生)を大型水槽(容量1000L)で飼育する新たな方法を開発。従来のように手作業で1尾ずつ仔魚の飼育管理を行うことなく、まとまった数の仔魚を飼育できるようになった。

約2万8千尾のふ化仔魚から飼育を開始し、平成25年12月25日には200日齢の仔魚(レプトセファルス幼生)約900尾を得ることに成功。さらに一部の個体はシラスウナギまで成長。

「ウナギ仔魚飼育方法及び装置」として特許出願(特願2013-263898)。

＜期待される効果・今後の展開など＞

現在、400尾以上がシラスウナギまで成長。

本方式により、水槽の大型化と飼育の省力化に展望が開け、シラスウナギの量産技術の開発に向けて前進。

本成果は、引き続き、農林水産技術会議委託プロジェクト研究「天然資源に依存しない持続的な養殖生産技術の開発」で活用。課題終了時までには1万尾のシラスウナギを生産できる技術を開発することを目標に、ウナギ仔魚の生残率の向上に取り組んでいるところ。

＜研究所名＞

(独)水産総合研究センター

＜担当者名＞

増養殖研究所 資源生産部長 桑田 博、主任研究員 増田賢嗣

＜連絡先＞

経営企画部 広報室長 杉崎宏哉 TEL: 045-227-2621

ニホンウナギ仔魚飼育 大型水槽で成功

—シラスウナギ量産技術の開発に期待—

- ・ニホンウナギの仔魚(レプトセファルス幼生)を**大型水槽(容量1000L)**で飼育する方法を開発(特願2013-263898)。
- ・200日齢の**仔魚約900尾**を得ることに成功し、さらに一部の個体は**シラスウナギまで成長**。
- ・水槽の大型化と飼育の省力化により、**シラスウナギの量産技術**の開発に向けて前進。

ウナギの完全養殖サイクル



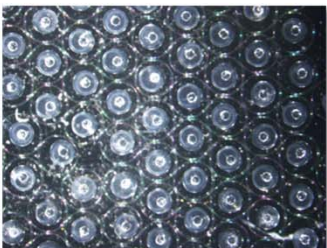
従来の小型水槽での飼育法



シラスウナギの大量生産に向けて必要な技術開発

良質の卵を安定供給する技術

ウナギの人為催熟技術開発・安定採卵技術の高度化により、良質の卵を安定的に供給



飼育技術の高度化 成長を促進する技術

天然魚が摂取している餌の研究、安価で成長が良い初期飼料の開発、**大量飼育に適した飼育水槽の開発**



安定的にウナギを大量生産する技術

継代飼育による遺伝的改良(育種)によりシラスウナギを安定的に大量生産



画像資料:(独)水産総合研究センター提供